

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 南九州プラットフォーム (熊本大学・鹿児島大学)
コラボ研修プログラム	事業名：「教職員の資質向上プログラム」
支援事業報告書	研修等名：【NITS・南九州プラットフォーム (熊本大学・鹿児島大学) コラボ研修】 「教職員の資質向上プログラム」 令和の日本型学校教育の実現をめざすオンラインセミナー
	開催日時：令和4年11月17日、18日、19日 (13:00-16:45) 開催場所：熊本大学 (熊本県熊本市中央区黒髪 2-39-1) 定員：50人に対し、80人の受講申し込みがあり 参加人数 (総数) と参加者の属性 延べ人数：155人 (1日目受講44人、2日目受講57人、3日目54人) 熊本：80人 鹿児島：75人 (熊本大学スタッフ10人、鹿児島大学スタッフ2人)

内容：

これまで、南九州プラットフォームとして教職員支援機構と実施してきた合同セミナーを、両大学で協議して本年度の熊本大学企画は、次の様に見直した。ミドルリーダーに限らず、若手教師も参加できる研修内容を取り入れること、働き方改革の観点から終日の研修から半日の研修とし、1研修時間を45分として平日にも開催することとした。また、南九州の優れた研究者を周知する機会として熊本大学教員による研修を実施し、研修後は期間限定でオンデマンドでも研修を受講できるように配慮した。

1日目：11月17日 (木)

講義1「熊本県の教育施策等について」(熊本県教育委員会 藤岡寛成課長)

熊本県の教育の施策である「熊本の学び」について、その理念を示し、具体的に授業づくりのポイントを示しながら、わかりやすく説明がなされた。

講義2「コミュニケーション理論」(熊本大学 ハツ塚一郎教授)

主体的で対話的な深い学びの対話について取り上げ、対話をするときのリソースの活用を最新の研究を紹介しながら説明された。

講義3「言語能力の確実な育成」(熊本大学 北川雅浩准教授)

発達段階に応じて、言語活動をどの様に育成していけば良いのか具体的な事例を示しながら、指導から支援の転換について示唆された。

講義4「熊本の学び実践発表」

実践発表として八代市立第一中学校 鋤先良浩教諭と天草市立本渡中学校 中山俊輔教諭が「熊本の学び」について自校で実践した取り組みが発表された。

2日目：11月18日 (金)

講義1「熊本市の教育施策等について」(熊本市教育委員会 田口清行部長)

熊本市の教育施策について、さまざまな事業を企画し、予算を獲得しながら熊本市の子供達のために一丸となって取り組まれている状況が説明された。

講義2「個別最適な学びについて」(熊本大学 苫野一徳准教授)

個別最適な学びの基本は、自己選択・自己決定の機会をできるだけ保証する事である事を示唆された。また、実践事例を児童が制作した動画が披露され、主体的に児童が授業に取り組む姿を確認することができた。

講義3「学びに向かう力の育成」(熊本大学 高崎文子准教授)

学びに向かう力とは、非認知能力とモチベーションであることが示され、モチベーションの基本構造やモチベーションを高めるアプローチの具体例を示しながら説明された。

講義4「実践発表 熊本大学教育学部附属小・中学校」

熊本大学教育学部附属小学校 磨田慎太郎教諭と熊本大学教育学部附属中学校 富永誠太郎教諭が自校の取り組みを発表した。附属小の発表は、低学年体育の授業で、児童が作戦を立て主体的に取り組む姿について動画を用いた発表であった。附属中は、学校総体としてカリキュラムマネジメントに取り組み、過去の研究のリソースを生かしながら各教科で学んだ見方考え方を総合的な学習で、生徒が主体的に授業を創る発表であった。

3日目 11月19日(土)

講義 1 「探究的な見方・考え方を働かせる授業開発」(熊本大学 藤瀬泰司教授)

教科教育の視点を働かせるということ「あだ名の使用に関する学級活動の授業構想」について、ブレイクアウトで受講者が話し合い、講師がこの授業構想について示唆した。

講義 2 「授業のユニバーサルデザイン入門」(熊本大学 菊池哲平教授)

授業のUD化モデルを活用して、授業におけるアクセシビリティを高める必要性や「理解」を促すために視覚化・共有化・焦点化を支援ポイントとして取り組む具体例が紹介された。

講義・演習 3・4 シンポジウム「GIGAスクール時代に求められる授業づくり」

熊本大学 前田康裕特任教授をコーディネーターとして、熊本市立桜山中学校 田口恵子校長、熊本市立五福小学校 野口澄教頭、熊本市立藤園中学校 江藤亜矢子教諭(現職の熊本大学院生)が発表を行なった。熊本市でSTEAM教育の指定校である桜山中学校と五福小学校の実践は、生徒や児童の主体的な活動が紹介された。藤園中学校の発表では、教職員がICTを活用して主体的に研修する実践が紹介された。

成果:

3日間の研修終了時に講義内容に関するアンケートを実施した。大変役だった4～役立たなかった1の4段階評価の平均値は次の通りであり、受講者にとって役立つ内容であったことが分かる。

11月17日 講義1(3.6) 講義2(3.6) 講義3(3.7) 講義4(3.8)

11月18日 講義1(3.3) 講義2(3.7) 講義3(3.8) 講義4(3.7)

11月19日 講義1(3.6) 講義2(3.7) 講義(3・4) シンポジウム(3.7)

以下、感想をいくつか紹介するが、本研修会の講師を務めた本学の職員が各校種の各学校の校内研修講師として務める機会が増えるのではないかと考えている。このような取り組みが、免許更新講習に代わる新たな研修の取り組みになり得ると捉えている。

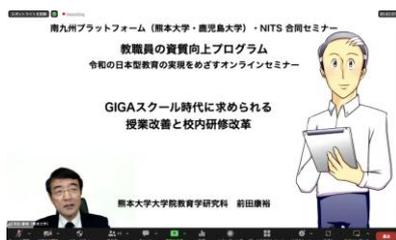
- ・他県の研究実践を知ることができ、勉強になりました。小中が連携して発表していらっしゃる様子を見ることができ、小中連携の様子も大変刺激になりました。
- ・多くの学びがありました。職員一丸となって研修を進めるために、ビジョンの共有、情報交換の場などが大事だと思いました。楽しく明るく、職員全体の学びになるような校内研修を自校でも進めていければと思います。
- ・今後教育の現場において求められる資質・能力について具体的な理論や、とても魅力的な学校の取り組みについて知ることができ、先生方や子どもたちの実際の姿を見てみたいと思った。情報量が多く、資料を見返しながら整理していきたい。学ばば学ぶほど、子どもたちに求められる力や学び方は、教員がまず実践し、学び方を体得する必要がある気がした。その学びなくて生徒に向き合ってもなかなか有効な実践とならない気がする。熊本大学の皆さんに頂いた知見と刺激を力として、鹿児島での地でも頑張りたい。
- ・大学院での探究課題に関連する内容も多く大変参考になりました。講義の中でのディスカッション(ブレイクアウトルーム)やチャットを活用した質問や感想など、リアルタイムな活動が主体性もうまれとてもよかったです。3日間ありがとうございました。

アイデアや工夫したこと:

本年度、熊本大学と鹿児島大学でこれまでの4年間の研修について振り返り、南九州プラットフォームの研修をどの様に進めていくのか協議し、本コラボ研修を企画した。以下、本年度の工夫点を列挙する。

- ① 熊本県・熊本市教育委員会と連携して研修時間を1研修時間45分と設定した。
- ② 午後からの勤務時間内の研修時間も設定した。
- ③ 令和の日本型学校教育の実現をめざすオンラインセミナーとすることで、ミドルリーダーだけではなくストレートの院生や若手教師でも参加しやすい研修内容とした。
- ④ 各研修を録画し、編集してオンデマンドでも研修が受講できるように配慮した。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真(寄って撮影またはトリミング)を撮影してください。



前田特任教授講義画面



実践発表者画面



藤瀬教授と受講者